

「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択) 中間評価結果

機関名	東北大学	拠点番号	I 0 2
申請分野	社会科学		
拠点プログラム名 (英訳名)	社会階層と不平等研究教育拠点の形成 (Center for the Study of Social Stratification and Inequality)		
研究分野及びキーワード	〈研究分野: 社会学〉(社会階層)(不平等)(マイノリティ)(東アジア)(公正)		
専攻等名	文学研究科(人間科学専攻、言語科学専攻、歴史科学専攻)、教育学研究科(総合教育学専攻) 農学研究科(資源生物科学専攻)		
事業推進担当者	(拠点リーダー名) 佐藤 嘉倫 教授 他 14名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書(平成17年4月現在)を抜粋

<p><本拠点がカバーする学問分野について> 本研究拠点がカバーする学問分野は社会学、行動科学、社会心理学、経済学、文化人類学、宗教学、歴史学、教育社会学の8つである。</p>
<p><本拠点の目的> 本拠点プロジェクトの目的は、社会階層と豊かな社会における「新しい不平等」に関する研究教育を国際的水準で推進するオンリー・ワンの拠点を形成することである。このために次の研究教育活動を行う。(1)社会階層と「新しい不平等」という現代的課題に従来の方法論を超えた多元的方法論でアプローチする。(2)国内外の客員教授・客員研究員を招聘するとともに、COE研究員(ポストドク)を国内外から募集することにより、世界に開かれた拠点として優れた研究者を集積して国際的水準の研究成果を挙げる。(3)これらの客員教授・客員研究員・COE研究員との日常的交流を通じて国際的発信能力を持った大学院生を育成する。</p>
<p><計画：当初目的に対する進捗状況等> 本拠点の研究計画は、(1)1つの中核研究部門と3つの個別研究部門を設け部門間の有機的連携により「新しい不平等」の解明に取り組み、(2)優れた人材を集めた国際的研究拠点を形成することである。また教育計画は、少人数によるオンゼジョブトレーニングを通じて若手人材を育成することである。 これらの計画はほぼ順調に進捗している。定期的なワークショップや正・副アドバイザー制、COE特別研究奨励費制度などを活用して、研究部門を越えた研究教育活動を推進している。また海外研究者のワークショップへの招聘や客員助教授・フルブライト招聘講師の活用を通じて、国際的研究教育環境を整えている。</p>
<p><本拠点の特色> 本拠点の特色は次の4点である。(1)4つの研究部門間の有機的連携によって、多角的に社会階層と不平等の解明に取り組む。(2)コンピュータ・シミュレーションや前近代社会と近代社会との比較など、従来の研究では用いられなかった手法を用いて、理論的研究を推進する。(3)統合的データ分析によって社会階層と不平等の実証分析を進める。(4)高度な専門知識を有した研究者の集積効果がある。</p>
<p><本拠点のCOEとしての重要性・発展性> 本拠点は、(1)学問的・社会的要請の高い社会階層と不平等の解明を推進する拠点であること(2)日本において研究の歴史が長く膨大な研究蓄積もある社会階層研究の拠点であること、という2点において重要である。また(1)日本の社会階層と不平等研究の高い潜在力を集結し研究成果を継続的に世界に発信すること(2)若手育成を恒常的に行う社会階層と不平等の教育拠点であること、という2点において発展性がある。</p>
<p><本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果> 期待される成果は次の4点である。(1)世界に類のない社会階層と不平等に関する総合的研究教育拠点として世界的に評価される。(2)様々な方法論や対象を組み合わせた多元的方法論を活用した研究成果が得られる。(3)国内外から選ばれたCOE研究員を国際的水準の教育プログラムで鍛えることで、国際的競争力を持った若手研究者に育てる。(4)同様のプログラムにより、国際的発信能力を持った大学院生を育成する。</p>
<p><本拠点における学術的・社会的意義等> 社会階層と不平等研究は、世界的に盛んに研究されている。日本ではSSM調査研究が中心的な役割を担ってきて国際的にも高い評価を受けている。そして拠点リーダーの佐藤は研究代表者として2005年SSM調査を進めている。したがって本拠点プログラムと2005年SSM調査が連携すれば、本拠点の国際的評価も高まる。また本拠点の研究成果に基づいて、不平等や格差の姿を明らかにし、差別や抑圧について発言をしていくことは、人びとの「よりよい社会」に向けての営みにとって、計り知れない貢献を期待できる。</p>

◇21世紀COEプログラム委員会における評価

<p>(総括評価) 当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される。</p>
<p>(コメント) 社会階層と不平等に関する社会学を中心とした学際的な教育研究の拠点の形成において、当初の計画が順調に実施されていると評価される。このまま教育研究の現行の努力が続けば、目的達成は可能であろう。 人材養成の面では、COE研究員とCOE大学院生が計画の推進の中でよく訓練されて研究者として着実に成長しており、大学や研究所に常勤ポストを得る者も現れ、研究と教育の連携が実証されている。 さらに、国際的競争力を高めるための人事の努力やワークショップの開催でも見るべき成果を上げてきた。研究成果の発信は内外の社会に向けて活発に行われており、とくに英語によるワークショップの51回の開催、英文年報の刊行は注目される。</p>